

第3回皇學館大学 地(知)の拠点整備事業 公開シンポジウム報告書

—伊勢志摩で共に暮らし続けることのミライを考えあうシンポジウム vol.3—

1. 概要

日時	平成29年9月10日(日) 13:30~16:30
場所	皇學館大学 記念館
プログラム	I部 (13:30~14:00) セレモニー 挨拶・COC 概要および進捗説明 皇學館大学教育開発センター長 齋藤 平 伊勢志摩みらいづくり調査報告 現代日本社会学部 教授 筒井 琢磨 II部 (14:00~16:00) シンポジウム(フューチャーセッション) ※登壇者等については、p.2 参照 III部 (16:00~16:30) パネル交流会(学生や地域団体による CLL 活動紹介) ※パネル出展活動については、p.4 参照
参加人数	103名(登壇者を含む) ※属性については別添参加者アンケート結果参照)
配布資料	プログラム、登壇者リスト、アンケート用紙、コメントカード 『伊勢志摩定住自立圏共生学』パンフレット、 皇學館大学 COC 事業報告書 Vol.3 「若者はわがまちをどのように考えているか —居住意思と利他性— 伊勢志摩みらいづくり調査結果より」
取材報道機関 (敬称略)	ZTV、中部経済新聞社

2. 各セッション内容

I部 セレモニー

はじめに、齋藤 平 皇學館大学教育開発センター長よりCOCの概要と進捗の説明が行われた。続いて現代日本社会学部の筒井教授より、伊勢志摩の若者を対象にした「伊勢志摩



会場となった皇學館大学記念館

みらいづくり調査」の報告が行われた。報告では「ボランティア活動に参加する」などの利他性の高い人ほど、地域に住み続けたいと考える傾向を紹介し、「なぜ利他性は居住意思と関連が強いのか」というⅡ部へのテーマ提起とした。



左：会場全体風景

右：齋藤教育開発センター長 挨拶

Ⅱ部 シンポジウム（フューチャーセッション）

【登壇者】

*大学生（8名）

伊勢市 「みんなの声を聞くには？PJ」
鳥羽市 「伊勢志摩共生学実習（答志島）」
志摩市 「あばばい伊勢志摩国立公園学生部会」
玉城町 「玉城産豚ブランド化PJ」
度会町 「度会カフェリョクPJ」
大紀町 「大紀町漁業活性化PJ」
南伊勢町 「南伊勢町ドローン防災PJ」
明和町 「産学官連携日本酒PJ」

北村 優佳 さん（文学部国文学科4年）
佐藤 翔輝 さん（現代日本社会学部4年）
中川 莉緒 さん（現代日本社会学部3年）
古 布 廉 さん（現代日本社会学部4年）
御邊 健一郎 さん（現代日本社会学部3年）
渡部 美帆 さん（文学部国文学科4年）
森本 恭平 さん（現代日本社会学部4年）
渡邊 吏香 さん（現代日本社会学部4年）

*伊勢志摩圏市町若手職員（7名）

下村真有子 氏（伊勢市役所）
小川 真依 氏（志摩市役所）
田 畑 諒 氏（度会町役場）
山口 浩司 氏（明和町役場）

木下 大輔 氏（鳥羽市役所）
中西 慶博 氏（玉城町役場）
河村 美帆 氏（南伊勢町役場）

【コメンテーター】

近藤 玲介（教育開発センター准教授） 千田 良仁（教育開発センター准教授）

【ファシリテーター】

林 雅 也（教育学部3年）
板井 正斉（教育開発センター准教授） 池 山 敦（教育開発センター助教）

これまで多様な地域課題のを通じて考え合ってきた本シンポジウム。今回は、学生が実際の地域活動を通してどのような思いを持っているのかを焦点に伊勢志摩圏域市町の若手職員7名、伊勢志摩で地域活動に取り組む本学学生8名が登壇し、フューチャーセッションが行われた。

進行は本学教員2名とCLL活動「皇學館みらい対話団。」のメンバーである教育学部3年 林 雅也さんが担当した。まずは各学生が自分が関わった地域活動の概要を説明。林さんから学生に「地域への思いの変化」について問いかけたところ、学生からは「身近な課題や魅力を知り、地域を見直した」「地元を誇りを持てた」などの意見が出た。学生の意見を受けて、市町職員は「学生のパワーに活気づけられた」「体験を通じた情報発信に期待したい」などとコメントした。また会場からもその都度、付箋で登壇者への質問・応援などを受付ながら進行。二部の最後は、登壇した学生と市町職員の全員が、地域活動への思いをキーワードにして掲示した。「学生時代に地域活動をすることの魅力」として、学生からは「成長」「出会い」「主体性」などの意見があり、また「学生への期待」として市町職員から「発見」「熱意」「地域に元気を！」などの言葉があがった



Ⅲ部 パネル交流会（学生や地域団体による CLL 活動紹介）

Ⅲ部の交流会は、CLL 活動を紹介するパネル交流会を「地域×学生サポーター『Stand by CLL(SBC)』」の学生が中心となって企画した。SBC メンバーがマイクを持ちながら会場を回り、参加者に感想をインタビューするなど活発な交流が行われていた。登壇し、交流会企画にも関わった 4 年北村優佳さんは「活動の形は様々だが『地域を良くしたい』思いは皆同じ。今日のように発信・交流することで地域や学生の背中を押したい」と語った。

【中間報告パネル展示 CLL 活動】

1	大紀町木のおもちゃプロジェクト
2	皇學館みらい対話団
3	度会カフェリョクプロジェクト
4	玉城産豚ブランド化プロジェクト
5	南伊勢町 UAV（ドローン）防災活用プロジェクト
6	伊勢シーパラダイス、リニューアルプロジェクト
7	TMMF(玉城ミュージックフェスティバル実行委員会)
8	産学官連携日本酒プロジェクト
9	玉城町玄甲舎プロジェクト
10	「みえ食旅パスポート」利用促進プロジェクト
11	地域×学生サポーター『Stand by CLL』
12	J A伊勢「青ねぎ・いちご」プロジェクト
13	宇治山田産官学拠点「まちなか研究室」運営プロジェクト
14	みんなの声を聞くには？プロジェクト
15	伊勢古市歌舞伎保存会
16	宇治山田商業高校課題研究(商品開発)サポーター
17	未来を担う子どもたちへ福祉の WA を紡ごうプロジェクト
18	着ぐるみ（伊勢まいりん）を使用した伊勢市観光事業の PR 活動
19	伊勢市地域福祉計画・活動計画に関するリサーチおよびコミュニケーション
20	あばばい ～伊勢志摩国立公園 学生部会～

※ 展示された中間報告は、COC 事業ホームページ（<http://coc.kogakkan-u.ac.jp/>）に掲載





質問に答えながら自分たちの活動を紹介し、シンポジウムに参加いただいた方々との交流を深めることができた。



↑ SBC メンバーによる会場内インタビュー